



平成 28 年 11 月 8 日

各 位

会社名 価値開発株式会社
 代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
 (コード番号 3010 東証第2部)
 問合せ先 取締役管理本部長 秋山 耕一
 (TEL:03-5822-3010)

第2四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異、営業外収益(投資事業組合運用益)の計上及び通期の連結業績予想の修正に関するお知らせ

平成 28 年 5 月 10 日に公表いたしました平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 28 年 4 月 1 日から平成 28 年 9 月 30 日まで)の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。

また、平成 29 年 3 月期通期(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)の連結業績予想につきましても修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 予想値と実績値との差異について

平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日)

(金額の単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想値 (A) (平成 28 年 5 月 10 日発表)	2,930	123	259	182	13 円 61 銭
実績値 (B)	3,109	241	392	283	21 円 12 銭
増減額 (B-A)	179	118	133	101	—
増減率 (%)	6.1%	96.0%	51.2%	55.4%	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 28 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間)	2,872	114	243	403	30 円 18 銭

(注) 平成 28 年 10 月 1 日を効力発生日として、普通株式について 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。

2. 業績予想の修正について

平成 29 年 3 月期通期の連結業績予想の修正(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

(金額の単位：百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A) (平成 28 年 5 月 10 日発表)	5,729	165	440	300	22 円 43 銭
今回修正予想値 (B)	5,320	168	460	336	25 円 07 銭
増減額 (B-A)	△409	3	20	36	—
増減率 (%)	△7.1%	1.8%	4.5%	12.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期連結会計年度)	5,754	181	443	418	31 円 28 銭

(注) 平成 28 年 10 月 1 日を効力発生日として、普通株式について 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

3. 平成 28 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間の連結業績予想値と実績値との差異の理由

売上高は計画を 179 百万円、営業利益は計画を 118 百万円上回りました。主な要因は、中長期滞在型ホテル『バリュー・ザ・ホテル』において、震災復興事業者の宿泊者に加え、震災復興事業者以外の宿泊者が大幅に増加したことにより稼働率が改善し計画を大きく上回ったことなどによるものであります。

経常利益は計画を 133 百万円上回りました。主な要因は、営業利益差異に加え、復興ファンドに係る投資事業組合運用益が好調な結果となり営業外収益が計画を上回ったことなどによるものであります。

親会社株主に帰属する四半期純利益は計画を 101 百万円上回りました。主な要因は、経常利益差異を計上する一方で、法人税等が計画超過となったことなどによるものであります。

4. 営業外収益(投資事業組合運用益)の計上

上記のとおり、復興ファンドに係る投資事業組合運用益が好調な結果となり、平成 29 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間において、投資事業組合運用益 206 百万円(第 2 四半期連結会計期間 164 百万円計上)を営業外収益に計上いたしました。

5. 平成 28 年 3 月期通期の連結業績予想の修正の理由

第 2 四半期連結累計期間の業績に差異が生じたこと及び下記の要因により、通期連結業績予想を修正いたします。売上高及び営業利益は、既存ホテルにおいては、当初の計画通りに推移する見込みであります。一方で賃借しておりましたホテル物件の賃貸借契約の中途解約に伴う運営ホテル軒数の低下により減少する見込みであります。また、その他各業績予想値については、不動産事業における固定資産の売却等の過程で生じる損失の可能性を見込み、保守的な見積りといたしました。

(注) 本資料に記載されている業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、さまざまな不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想と異なる場合がございます。

以 上